

< Topics >

リップル本社 吉川シニアディレクターにインタビュー（後編）

今週のリップルウィークリーレポートでは、サンフランシスコにある Ripple の本社の吉川氏（以下、敬称略）へのインタビューの後編を特集します。今回は Ripple 社が注力していること、吉川氏による日本のリップルのファンに向けたメッセージもあります。

大西：ステーブルコインや中央銀行デジタル通貨がでてくると、暗号資産が使われなくなるという意見がありますが、それについてどう思われますか？

吉川：暗号資産にはいろんなタイプのものがありますが、XRP の国際決済におけるブリッジアセットとしての役割はステーブルコインや CBDC とは競合するものではなく、逆に相互補完するものだと考えています。様々なステーブルコインや CBDC を、独立した暗号資産である XRP がブリッジすることによって流動性問題に対応し、シナジーを生むものだと考えています。

大西：ODL について説明してください。

吉川：ODL はオンデマンド流動性 (On-Demand Liquidity) の略で、RippleNet 上で流動性をオンデマンドで調達するための機能です。これまで、金融機関が外国に送金をする際には、現地の金融機関にノストロ口座を用意して、現地通貨で準備資金（プリファンディング）を入れておく必要がありました。このプロセスは資本効率的にも為替リスク的にもコストが高いですし、またコンプライアンスやオペレーションの負担も大きいです。これは特に中小金融機関にとっての最も大きなペインポイントの一つであると言われています。暗号資産を活用することでノストロ口座へのプリファンディングが必要なくなり、完全にオンデマンドで通貨を変換することができるようになります。具体的には、送金側の通貨がその国の取引所で XRP に変換され、XRP が送付先の国の取引所のウォレットに瞬時に移動、そこから現地通貨に変換され、最終受取手に届けられます。今までのプリファンディングモデルがバッチ型だとすると、ODL によって完全にオンデマンド型に移行できることとなります。

大西：Ripple 社が今もっとも注力していることは何ですか？

吉川：やはり何と言っても ODL の普及ですね。ODL が新規市場でローンチするためには、現地規制当局との話し合いや、パートナーとの連携、市場における流動性など、様々な必要要件をクリアする必要があります。全く新しい仕組みなので障壁も多いですが、一つ一つクリアして前進しています。特に暗号資産に対する規制当局の理解のあるマーケットを優先して進めています。

また、Xpring を通して、XRP や Interledger の技術を活用した新たなユースケースの創出を支援することにも大きく注力しています。是非今後、より多くの日本の開発者に、XRP や Interledger のことを知ってもらって活用してもらいたいと思っています。実際、最近日本の XRP コミュニティの中で、XRP Ledger を活用してサービス開発をするグループができるなどの動きもあり注目しています。

大西：日本にはリップラーと呼ばれる、熱狂的なリップルのファンが多くいます。どうしてリップルは日本人に人気があるのでしょうか？

吉川：大変ありがたいですね。Ripple は創業当初から、解決すべき課題を明確にして、それに対する「ビジョン」を広く発信し、ブレずに、愚直に課題解決に邁進してきたことが一つの理由かなと思います。また、



XRP を送金したことがある人の多くが、その瞬時にエレガントな送金体験に大きな感動を覚えますが（私もその一人です）、やはり根源的に XRP が使い勝手が良く、優れた暗号資産であるということが人を惹きつける大きな理由かなと思います。まだ XRP の送金をしたことがない人はぜひ試してみてください！

大西：日本のリップルのファンの皆様にメッセージをお願いします。

吉川：日本のリップラーコミュニティは団結心があり、クリエイティブで才能がある人が多いなといつも感心しています。昨年コミュニティによって開催された XRP Community Meetup は、コミュニティの皆さんが一から手作りで作り上げたイベントで、何から何まで素晴らしく、ワクワクさせる内容で、Ripple から参加したメンバーは皆一様に感激していました。私も日本人として誇らしく思いました。

また、一般的に、リップラーの皆さんは知的好奇心が旺盛で、勉強家で、コミュニティの中でもお互いの知識や知見を共有しながら高め合っている様子が伺えます。仕事として国際送金に携わっていないのにこんなに国際送金について詳しい人達って、他の国ではないですよ（笑）。皆さん Twitter などでフツーに、ノストロだの corridors だのリクイディティなど業界用語で語っていますからね。それだけ関心が高いということで、私個人としてもとても嬉しいです。

アートやデザインの才能のあるメンバーが多いことも日本のリップラーコミュニティの特徴ですね。

また近い将来ミートアップのような形で皆さんにお会いできるのが楽しみです。

< Weekly Head Line >

8月12日	リップルのパートナー Flare Networks が XRP 保有者向けの新しい暗号資産を発表
THE DAILY HODL	リップル社に支えられたブロックチェーン会社である Flare Networks は XRP 保有者向けの新しい暗号資産を展開している。
8月15日	リップル CEO、仮想通貨業界の Amazon を目指す
Financial Times	リップル社 ガーリングハウス CEO は FT 紙とのインタビューで（ネット界の巨人）Amazon は本屋から始まった様に、リップルも決済から始めている（が、ブロックチェーン界の様々な分野に進出する）と述べた。
8月15日	リップル、インドの ODL 計画を確認、規制の明確化を要求
CRYPTO NEWS FLASH	リップル社の Navin Gupta は、インド市場に ODL ソリューションを導入する計画を明らかにし、暗号資産に関する規制を定義するための公開協議を提案している。
8月16日	リップル、フィリピンでの ODL と XRP の採用拡大のために楽観的
CRYPTO NEWS FLASH	東南アジアのリップルの責任者が、XRP ベースのオンデマンド流動性決済ソリューションが国内でさらに採用されることを期待するという旨をフィリピンの日刊紙で示した。
8月18日	リップル、日本での戦略を明らかに
Cointelegraph 他	リップル社の国際事業部門シニアディレクター吉川絵美氏が、メディア向けに説明会を実施、低額・高頻度の国際送金分野にフォーカスし、金融機関・送金事業者とのパートナー開拓を進めていく考えを示した。

著作権表示 ©2020 FXcoin 株式会社

本レポートは一般的な情報提供を目的に作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。レポート内のいかなる情報又は意見も、仮想通貨の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではありません。本レポートは予告なしに内容が変更されることがあります。本レポートは著作物であり、著作権法により保護されております。当社の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家へ配布することはできません。